# 年間授業計画

教科：（地理歴史）　科目：（世界史A）　対象：（第2学年機械科1組～設備工業科）　（2）単位　使用教科書：改訂版世界史A（第一学習社）

教科担当者：（機械科1組：石井㊞）（機械科2組：石井㊞）（電気科：石井㊞）（建築科：竹内㊞）（設備工業科：竹内㊞）

1年間の計画を確認した後押印

| 教科 | 教務 | 副校長 | 校長 |
|---|---|---|---|
| | | | |

| | 指導内容<br>【年間授業計画】 | 世界史Ａの具体的な指導目標<br>（自校のスタンダード）<br>【年間授業計画】 | 評価の観点等 | 予定時数 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | 〔古代文明の形成〕<br><br>〔諸地域世界の形成と交流〕<br>・西アジア世界<br><br>※感染症の措置により、授業を行うことができないため、自宅学習課題等で対応する。 | ・世界の地域について大まかな分類ができるとともに、紀元前、世紀、千年紀など時間を表す単位を理解することができる。<br><br>・西アジアの大半が乾燥地帯であり、大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑(かんがい)農業が展開し、オリエント文明が生まれたことを知る。<br>・六十進法や暦など現代まで影響を与えているものがオリエント文明で生まれていたことを知る。<br>・アケメネス朝がオリエント世界を統一し、広域交通路を整備して諸民族の交流を促したことを知る。<br>・イスラーム教の基本的な知識を身につけている。<br><br>※感染症の措置により、授業を行うことができないため、自宅学習課題等で対応する。 | ・世界史を学ぶ上で、空間と時間に関する基本的な知識を身につけている。<br><br>・西アジア世界における古代文明の特徴と国家の変遷を理解している。 | 6 |
| 5月 | ・ヨーロッパ世界 | ・オリエント文明の影響を受けてエーゲ文明が形成されたこと、ポリスを中心とするギリシア文明が形成されたことを知る。<br>・重装歩兵として国防において大きな役割を果たすようになった平民の発言力が増し、アテネにおいて民主政が成立していったことを知る。<br>・ギリシア文明がアレクサンドロスの遠征で西アジア一帯に伝えられたことを知る。<br>・都市国家から出発したローマが地中海の周辺地域を征服し、大帝国を建設したことを知る。<br>・キリスト教の成立と展開を知る。<br>・西ヨーロッパ世界では、ビザンツ帝国に対して独自性が確立し、イスラーム勢力やノルマン人と対抗する中で、封建社会が成立したことを知る。 | ・ヨーロッパ世界における、ギリシアとローマの文明に関して、「民主政」・「共和政」などの用語の意味とともに、その重要性について理解している。<br><br>・キリスト教の基本的な知識を身につけている。 | 8 |
| 6月 | ・南アジア世界・東南アジア世界<br><br>・東アジア世界・内陸アジア世界 | ・東南アジアの諸民族が、南アジア文明や中華文明の影響を受けながら、海上交易の拡大に伴って港市を形成し国家を誕生させたことを知る。<br>・モエンジョ=ダーロとハラッパー遺跡から、インダス文明が明確な都市計画に基づいて建設された都市文明であったことを知る。<br>・仏教の成立と諸地域への伝播(ぱ)を知るとともに、南アジアの仏教がヒンドゥー教に吸収されて衰退していったことを知る。<br>・黄河・長江流域の新石器文化や殷・周の成立、漢字の起源を知る。<br>・春秋戦国時代の経済や文化の発展について知る。<br>・秦・漢帝国の成立と統治体制の特質、周辺諸国との冊封体制について知る。 | ・東南アジアの大まかな地理、及びその文化の特徴が南アジアと中国の影響の下にあったことを理解している。<br>・南アジアの特徴として、仏教やヒンドゥー教の知識を身につけている。<br><br>・東アジアの大まかな地理を理解し、中国の青銅器文明や古代国家の変遷を理解している。 | 8 |
| 7月 | ・諸文明を結ぶネットワーク | ・諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどして、歴史的事象の空間的関係を把握し、その時代の世界の特質や地域世界相互のかかわりを明らかにすることができる。 | ・これまでの地域的特性に関する知識を活用して、近代以降の基になる諸文明のネットワークを理解している。 | 4 |

| | 指導内容<br>【年間授業計画】 | 世界史Ａの具体的な指導目標<br>（自校のスタンダード）<br>【年間授業計画】 | 評価の観点等 | 予定時数 |
|---|---|---|---|---|
| 8月 | | | | |
| 9月 | 〔結びつく世界〕<br>・アジアの諸帝国<br><br>・近世ヨーロッパの形成と発展 | ・中国史のうち、明・清代の特徴を捉えることができる。<br><br>・ルネサンスが人間性の解放を求め、個性を尊重しようとする文化運動で、イタリアからヨーロッパ各地に広がったことを知る。<br>・カトリック教会を批判する宗教改革の運動がドイツからヨーロッパ各地に広がったことを知る。<br>・17世紀には、主権国家体制が形成され、オランダ･イギリス･フランスなどの国々が有力となったことを知る。<br>・15世紀後半以降のアジア･アメリカ･アフリカに対するヨーロッパの対外進出とその影響について知る。<br>・17･18世紀に、オランダ･イギリス･フランスなどが世界の諸地域に進出し、重商主義に基づく経済活動と植民地争奪戦争を展開したことを知る。<br>・ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカを結ぶ三角貿易が発達し、西ヨーロッパを中心とする大陸間分業体制が確立したことを知る。 | ･ルネサンス、宗教改革、ヨーロッパの対外進出の結果、近代への道が開けたことを理解している。<br><br>･対内的には主権国家体制が、対外的には支配-従属関係が、近代世界を形成していったことを理解している。 | 8 |
| 10月 | 〔ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成〕<br>・革命の時代の到来<br><br>・自由主義と国民主義の進展 | ・イギリス産業革命における世界的な背景や繊維部門の技術革新、交通革命、産業資本主義の確立を知るとともに、労働運動や社会主義思想が生まれたことを知る。<br>・18世紀における経済的変化や啓蒙思想を背景に、アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こり、その結果として西ヨーロッパとアメリカ合衆国に近代民主主義社会の基礎が成立したことを知る。<br><br>・ウィーン体制下で自由主義・国民主義運動が拡大し、イタリアやドイツでは国民国家の形成が促されたが、ロシアやオーストリアでは、皇帝主導の近代的改革に限界があったことを知る。 | ･産業革命、フランス革命、アメリカ独立革命を通し、近代民主主義社会が成立したことを理解している。<br><br>･ヨーロッパ諸国の国民国家形成を理解している。 | 8 |
| 11月 | 〔アジア諸国の変貌〕<br>・オスマン帝国の動揺と民族の自覚<br>・南アジア・東南アジアの植民地化 | ・インドでは、イギリスによる植民地化が進み、インド大反乱後にムガル帝国が滅亡し、イギリス支配下でインド帝国が成立したことを知る。<br>・東南アジアではオランダ･イギリス･フランスによる植民地化が進み、タイのみが独立を維持していたことを知る。<br>・中国においては、イギリスを先頭とするヨーロッパ諸国の進出が強まり、アヘン戦争･アロー戦争などを通じて半植民地化が進行する中で、太平天国のような民族運動や洋務運動のような近代化運動が起きたことを知る。 | ･オスマン、ムガル、明･清のアジア最盛期を経て、インド、東南アジア、中国でヨーロッパ諸国が植民地を形成したことを理解している。その過程で、アジア諸国の変容が起きたことを理解している。 | 6 |
| 12月 | ・東アジアの変容と日本の動向 | ・日本が、開国後明治維新を経て、ヨーロッパ文明の導入と近代化を進めたことを知る。 | ･日本の動向を世界の歴史に関連付けて理解することができる。 | 4 |

| | 指導内容<br>【年間授業計画】 | 世界史Ａの具体的な指導目標<br>（自校のスタンダード）<br>【年間授業計画】 | 評価の観点等 | 予定時数 |
|---|---|---|---|---|
| 1月 | 〔世界戦争と平和〕<br>・帝国主義の成立と列強の情勢<br>・世界分割とアジア・アフリカ<br>・二つの世界大戦とその影響 | ・19世紀後期の科学技術の発達が、欧米諸国で第二次産業革命の進展を促し、企業による寡占化と資本の集中･集積が進んだことを知る。<br>・欧米諸国が工業製品や資本の輸出先を求めて、世界各地に進出し、植民地や勢力圏の獲得競争を展開したことを知る。<br>・第一次世界大戦の勃発に至る経緯を知るとともに、第一次世界大戦が総力戦としての性格をもっていたことを知る。<br>・大戦後に国際連盟やヴェルサイユ･ワシントン体制が成立し、大戦前と国際秩序が変化したことを知る。<br>・戦間期において、アメリカ合衆国が国際的影響力を急速に増し、その大量生産･大量消費の生活様式が欧米諸国や日本に波及し、大衆社会が出現したことを知る。<br>・世界恐慌が資本主義諸国に深刻な打撃を与え、アメリカ合衆国のニューディール政策やイギリスのブロック経済政策など、各国で様々な恐慌対策がとられたことを知る。<br>・第二次世界大戦について、ヨーロッパの戦争から始まり、太平洋地域に戦争が拡大し、戦場が広域化していった過程、核兵器がもたらした甚大な被害、戦争の様相が多数の民間人を含む膨大な犠牲をもたらしたことを知る。 | ･「資本主義」､「社会主義」､「帝国主義」などの特質を理解し､欧米諸国の植民地獲得競争の展開を理解している。<br>･第一次世界大戦の経過と国際連盟の意義､不完全さを理解している。<br>･世界恐慌の影響に関して､経済的な側面から歴史を考えることができる。また､ドイツを中心として第二次世界大戦への経過を理解している。 | 6 |
| 2月 | 〔三つの世界の形成〕<br>・冷戦期の世界と日本<br>・アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題<br>・米ソ両大国の動揺<br><br>〔グローバル化する世界〕<br>・大国の動揺と国際経済の危機<br>・社会主義の後退と冷戦の終結<br>・グローバル化と多極化 | ・国際連盟に代わり国際連合が結成され、また敗戦国の処理が進められる中で戦後の世界秩序が形成されていったことを知る。<br>・第二次世界大戦後、東欧諸国に社会主義政権が誕生しソヴィエト連邦の影響力が拡大したのに対し、アメリカ合衆国が西欧諸国への経済援助を強化して「対ソ封じ込め」を図ったことを知る。<br><br>・ヴェトナム戦争などでアメリカ合衆国の経済状況が悪化する中、EC諸国や日本の経済が急成長し、また中ソ対立の深刻化やチェコスロヴァキアの改革に対するソヴィエト連邦などの軍事介入により、両陣営内での米ソの指導力にかげりが見え始め、国際政治は多極化に向かったことを知る。 | ･冷戦期の世界に関して､各地域の対立と第三世界の形成について理解している。<br>･「雪解け」以降､冷戦構造が崩壊し､世界は多極化へ向かったことを理解している。 | 8 |
| 3月 | ・地球社会への歩み | ・冷戦終結後に激化した旧ユーゴスラヴィア内戦、アフリカのソマリア内戦や、第二次世界大戦直後から続いているパレスチナ紛争などの地域紛争が世界各地で頻発していることを知る。<br><br>・地球世界の課題に関して設定した主題について、資料を用いて探求し、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現を探求することができる。 | ･冬休みの課題と1年間の成果として､自己の探求結果を他者と共有し､ワークシート等にまとめることができる。 | 4 |